

学校教育目標「学び合い 認め合い たくましく未来をひらく 児童の育成」



校長室の窓

令和8年4月28日(火) 第1号

この度、ご縁がありまして明石台小学校に着任いたしました小原静乃(おばら しずの)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

全校児童382名と37名の教職員スタッフで令和8年度をスタートし、早くも一月が過ぎようとしています。先日は学習参観及び懇談会にご来校いただき、ありがとうございました。

明石台小学校は、「学び合い 認め合い たくましく未来をひらく 児童の育成」を学校目標に、今年度も教職員一同心を合わせて教育活動にあたってまいります。子供たちにとって学校とは「学び合う」場であると同時に、家庭とは違う「社会生活」の経験を蓄えていく場でもあります。始業式では、「『失敗する練習』をしてほしい」「一人一人みんな違うから、それぞれの『やり方や考え方』を認め合い、相手とのちょうどよい関係を作って過ごしてほしい」と話しました。時にはつまずき、葛藤することも成長の大切な糧です。失敗を温かく見守りながら、自分で乗り越える力を育むサポートを、学校とご家庭で共に担っていきたいと考えております。

入学式では「進んで挨拶ができる1年生になってほしい」と話しました。朝、通学路で出会う子供たちから、先に「おはようございます!」と挨拶されることがあり、嬉しい気持ちになることがあります。交通安全のために交差点に立ってくださっている地域の方にも、進んで挨拶をしている子もいます。お互いが嬉しい気持ちになって、温かな気持ちが生まれる挨拶は、ご家庭での教えと共に「あいさつだいすき運動」を通して、培われてきているのでしょうか。その良さは引き続き大切に伸ばしていきたいと考えています。

学校説明会の場でもお話いただきましたが、ご家庭と学校は子供を共に育てるパートナーです。「この子供たちにとって何が最善か」を、対話を通して一緒に探っていきたいと考えます。保護者の皆様と教職員が、互いに信頼し合い、協力して問題に向き合う姿そのものが、子供たちに何よりの安心感と「人と関わることの温かさ」を教えてください。



そして、地域の方々とお話をする中で、地域の宝が学ぶ学校を大切に見守ってくださっていると感じます。地域の方もまた、子供を共に育てるパートナーです。学校・家庭・地域が「子供を真ん中に」して関わり合うことを大切にしていきたいと考えます。

これからも、子供たちの健やかな成長のために、手を取り合い、共に歩んでくださいますようお願い申し上げます。